

仙台陣屋 かわら版

学芸員は楽しい！

11月13日(火)、白老中学校から2名の生徒、尾美喬介君と宮本佳祐君が、陣屋資料館で学芸員の仕事を体験。資料整理を中心に頑張ってくれました。実際に働いてみて、どのように感じたでしょうか。

Q、働く前の学芸員の印象は？

尾美君 色々なことをきっちりしているそう。

宮本君 資料整理をし、案内する人たち。



〈協力・工夫しながら資料整理を行いました〉

第94号

(平成24年12月号)

発行: 仙台藩白老元陣屋資料館

〒059-0912 白老町陣屋町 681-4

TEL&FAX 0144-85-2666

もっと、もっと知ってほしい

11月15日(木)、幕末の探検家として有名な松浦武四郎の資料館を有する三重県松阪市より、市議2名ならびに名誉館長夫妻が陣屋を視察しました。4名は史跡・館内を見学したのち、資料館友の会とも懇談し、情報交換ならびに歴史的な繋がりがりや両施設の活性化について意見を交わしました。

両施設の年間入館者はほぼ同数ですが、武四郎記念館では短期間で数千人が来場するイベントがあることに驚かされ、また逆に資料館が発行する「かわら版」や夏に開催している特別展などは、4名が深い関心を示しました。共通して抱えている課題もわかり、大変有意義な懇談会となりました。

Q、働いてみた感想は？

尾美君 資料を探したり、史跡内の安全を確認したり、色んな事に目を向ける学芸員がいないと、運営が大変なのだとはよく解りました。

宮本君 資料を探す作業が楽しかったです。

Q、資料館の利用者を増やすには？

尾美君 陣屋の素晴らしさを理解してもらおう。

宮本君 地域の人たちから利用者を増やしていく。

短い時間でしたが、お疲れ様でした。今回の経験を、是非これからの生活で活かしてください。



〈施設の活性化について意見を交わす〉

私たちが残すべき白老町

平成24年度白老歴史講座が、10月27日をもって終了しました。「くらしから見た白老の歩み」親は何をしてきたか」をテーマとし、計8回にわたる講座を開講しましたが、第7講では、昭和の終わりごろから平成の初頭までを年表に沿って通覧。好景気が終わったことによる不況が地方にもたらした影響について説明されたほか、注目すべき町の移り変わりとして、平成以降のアイヌ民族施策について紹介されました。また平成3年に『新白老町史』が発刊されて以降の、情報収集の



故郷で紹介

近隣住民の医療に奔走し、白老町の名誉町民となった高橋房次氏が生をうけてから、今年で130年を数えました。出身地である栃木県小山市の市立博物館では、医師の功績について発信すべく、平成25年度の企画展開催に向けた準備を進めています。私財を投げ打ってまで行なっていた献身的な医療活動はもちろん、その人柄も含め、現在でも町民の記憶に深く残る医師について、故郷から遠く離れた地域での様子を地元の人々に知っていただけるのは、大変喜ばしいことです。

展示会では医師の写真や著書の他、日用品などが公開される予定です。

輝きが失われないように

現在、資料館で収蔵している刀剣の多くは町内の方々から寄託・寄贈を受けたものです。白老と深い関わりをもつ刀剣も収蔵していますが、実は取り扱いがとても難しい資料でもあります。手入れを怠ると刀剣はすぐに傷んでしまうのです。

竹浦在住の刀剣愛好家 横山敏夫さんは、毎年ご好意で刀剣の手入れを行なってくださっています。今年も11月8日に来館してくださいました。同じく白老在住の刀剣愛好家である小佐部靖晴さんがお手伝に加わり、およそ4点におよぶ刀剣が手入れされました。横山さんに小佐部さん、お忙しい中ありがとうございます。これからも白老と深い関わりをもつ貴重な刀剣資料を、一緒に守っていかねばと思います。

必要性を説かれました。

第8講では、計画が進められている【民族共生の象徴となる空間】について、かつてのイオル整備計画などに携わった見地から問題・課題等に触れ、白老町民として同計画とどのように関わるべきか、自覚を持つ必要性を提起されました。今年度の講座を終えるにあたっては、高齢化社会においても個々人が経験をいかに活かせるか模索し、発言することが未来に繋がるかとまとめられました。ご多忙の最中、講師を引き受けてくださった中村齋氏には改めて感謝申し上げます。

「仙台陣屋かわら版 第94号（平成24年12月号）」

発行日：平成24年11月20日（火）

発行所：仙台藩白老元陣屋資料館 担当者：平野・干場

<http://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/ka/jinya/>

Mail: jinya@town.shiraoi.jp